

政友みらい行政視察報告書（平成27年6月30日～7月2日）

参加者：山菅直己、篠原一世、藤倉義雄、大川圭吾、井川克彦、亀山春夫、齋藤弘、小暮博志

30日(火) 視察:宮城県多賀城市 『被害者住宅再建補助事業』について

説明：保健福祉部 社会福祉課 生活再建支援室 室長 阿部英明
室長補佐 伊藤 豊

『被害者住宅再建補助事業』について

多賀城市は人口約62,730人で、東日本大震災の被害にあい、市域の約3分の1(662ha)が浸水しました。壊れた家の数は11,500戸以上(市内家屋数約20,500戸)におよび死者数も188名となりました。

多賀城市では、災害復興10年計画の推進中であり、現在は再生期(H26～H29)にあたります。

幾つかの場所を案内していただき、これから大きく変わる状況を視察しました。次に、何点か示します。

- ・多賀城駅周辺では、図書館や社会福祉施設の建物が建設中でした。人が多く集まる中心地にしたいとのことでした。
- ・東日本大震災による地震・津波災害を受け、全壊割合が100%近い被害を受けた宮内地区を視察。約7.1haの市街地復興事業が推進中であり、宅地の嵩上げを含めた土地区画整理事業も行われており、道路整備も始められ、建物移転もH27から開始の状態でした。(完成H29)
安全の確保のため、百数十年に一度襲来する津波にはハードでまもり、数百年から千年に一度に襲来する津波には逃げる(ソフト)を前提に、災害に応じた対策を幾重にも進めるとしていました。
- ・完成(H26年10月)した162戸の公営住宅を見学。鉄筋コンクリート4～6階。保育所、高齢者生活相談所、集会所、防災倉庫等を設置。一階部分は津波対策として、駐車、駐輪所。総事業費約52億円。各建物は2階部分で連結。
市営住宅は、4ヵ所に274戸分を建設とのこと。(因みに、多賀城市の全壊の戸数は、1,740世帯)
- ・多賀城市では、被害者住宅再建総合支援制度を運営し、基礎支援金、加給支援金を設け、現金支給の支援を積極的に推進。市民にも喜ばれているとのこと。
- ・その他として、多賀城市職員の生の声として、①避難所生活では、住民の皆さんとの信頼関係を普段から築く、②住民対応では、情報不足や対話不足が信頼関係を損なう、③自分の家族では、家族への不安が減れば仕事が身に入る、④自分については、組織として個人として職員の責務は重い、それに負けない環境と気持ちを普段から準備しておく 事の大切さを知りました。

今回、東日本大震災の後の、現在の状況を色々と見聞でき勉強になりました。

また、佐野市の職員で多賀城市に派遣されている上岡様には、お忙しいところ案内頂き、有難うございました。

7月1日(水) 視察:岩手県盛岡市 『まちなみ保存活用プロジェクト(歴史的街並み)』について

説明：都市整備部 環境政策課 副主幹 仁昌寺 均
商工観光部 観光課長補佐 割船克彦

『まちなみ保存活用プロジェクト(歴史的街並み)』について

盛岡市は、人口約293,162人で、中心市街地の活性化、観光客誘致を促進している。

平成26年の年間観光客入込客数は497万人で、前年を25万3千人(約5%)上回り、最多を記録。

まちづくり計画として、平成21年度より「大慈寺地区まちづくり計画」を策定した。目標は、城下町の風情を残すまちなみ景観の保全及び形成と、これらまちなみと調和したまちづくりを行い、まちの魅力を向上させるとともに交流の創出などで地域の活性化をはかる。

この地域の36.8haは、4つのゾーンに分けられ、周囲の歴史的景観が保たれるように建築物の形態意匠の制限をしている。

- ・町屋ゾーン：旧街道筋の城下町の風情を感じさせるゾーン。
- ・住居ゾーン：町屋ゾーンと環境保護ゾーンを包み、周囲の歴史的景観との調和を図るゾーン。
- ・環境ゾーン：寺院、墳墓、樹木など歴史的な遺産が立地しているゾーン。
- ・賑わいゾーン：地場産業の酒造や生活用品の販売などを通し、地域の暮らしと産業を体感できるゾーン。

盛岡町屋等の修景助成事業として、平成20年度に助成金交付要綱を策定し、盛岡町屋等の改修経費の2分の1以内の金額を補助金として交付。(上限有り:300万円) 交付件数は、平成20年度から平成26年度までに、計14件。

町屋の中心部に、町屋物語館を酒造鉦屋町跡にリニューアルし、地域の案内や文化の情報発信。歴史的遺産をうまく生かし、まちの活性化に努めているようすを知ることができました。